

資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録
2013年度 第9回

報告題名 (title) : ジャワの野菜流通における市場統合と商人による価格形成の実態			
報告者 (name)	池田 真也	日時	11月21日 午後3時～
所属分野 (labo)	国際開発学	場所	第2講義室
座長	藤井 隆太	議事録担当者	江守 智夏子
出席者 長谷部、小山田、盛田、米倉、伊藤、石井、水澤、スチン、八木、池田、タンボウニ、山口、Bayu、カライ、趙、U-Nichols、今井、佐々木、志賀、西田、朴、オウ、渥美、伊藤、江守、小田嶋、金、藤井、町田、秀、武居			
報告要旨 (Abstract) <p>ジャワの伝統的な農産物市場は非公式な慣習や社会的関係により支えられており、その競争的な様子から文化や慣習を優れた仕組みとして考えられている。しかし、小売市場はスーパーマーケットとの競争の増加、市場価格の変動の大きさから安定的な市場の構築は重要な課題である。</p> <p>このためにはインフラの未整備により妨げられてきた地域間の市場統合が必要と考えられてきたが、市場統合されていれば市場価格を形成する仲介者も頑強ないし効率的になるのだろうか。この問いに対して、西ジャワ州と東ジャワ州の価格データを用いて市場統合の検証を行った。また、公設卸売市場（パサル）の商人のデータを用い、価格形成の実態を比較した。</p> <p>結果として、ジャカルタ特別州、西ジャワ州、東ジャワ州はベクトル誤差修正モデル (Vector Error Correction Model) による検定から長期的な均衡関係にあるという意味で市場統合されていた。しかし、価格決定方法は異なっていた。東ジャワ州では商人による個人的なネットワークを中心とした分権的な価格決定がされていると考えられたが、西ジャワ州以西では荷受業者を中心とした信用取引制度の形成により集権的な価格決定がされていた。価格決定方法の相違による各商人の効率性の相違点に大きな違いは見られなかったが、西ジャワ以西がより競争的である点が示唆された。仮に東ジャワ州でも集権的な市場システムを導入するのであれば、スポット決済を可能にする公的なシステムの導入が重要だと思われる。</p>			

質疑・応答(Q & A)

八木：チュンテンとバンドルの関係について、チュンテンとバンドルが価格交渉する余地がないというのはどういうことか。また、チュンテンはバンドルになることを妨げられないとはどういうことか。

池田：チュンテンの立場からすると、バンドルは買い付けの仲介しているのみであり、実際にチュンテンが認識している価格は産地の地場商品の価格である。バンドルはチュンテンに商品を取り次ぐことで固定的な料金を得ており、マージン率自体は非常に低いが、たくさんの取引を行うことで多くの利潤を得ている。つまり、産業組織論で想定される垂直的取引関係で見られる契約関係は見られない。2つ目の質問に関しては、一般的にチュンテンはバンドルになりたいと考えているが、バンドルが行う業務には運転資金を必要とするため、通常のチュンテンはバンドルになることができない。

八木：独占的な価格設定がされている状況で市場が統合されるとはどういうことか。

池田：独占的な価格設定の中でも、厳密に言えば複占的な価格設定が行われている状況であり、実際の価格設定は各荷受会社間の競争による結果から設定されていると考えられる。そうであれば、個々の荷受会社による価格設定よりも、独占的な荷受会社を基にした価格の方が分散は低くなっていると考えられる。そのため、市場統合の検証を行うためのモデルを使う際に必要となる「市場における価格が一つである」という前提が妥当なものとなるためモデルを使うことができる。

長谷部：マージン率により荷受会社と仲買人を統計的に比較しているのか。荷受会社に対してよりマージン率が低い仲買人のサンプルを持ち出して事例として検討しているようだが、スライドの図表からは統計的な分析に見える。

池田：サンプルを集める際に荷受会社と仲買人を識別していなかったため、人数構成比が少ない荷受会社のサンプルが少なくなってしまった。そのため、荷受会社については「参考値」として、仲買人のデータを荷受会社の参考値と比較しながら検証を行っている。

長谷部：統計データだけでなく、むしろ個別具体的な事例により説明した方がわかりやすい。

池田：具体的な事例としての説明を付け加えることを今後検討する。

米倉：ネットマージン率から効率性を分析するのであれば、固定費を回収できているかどうかを検証する必要がある。そのため、固定費のデータを示す必要があるのではないか。

池田：ネットマージンを消滅させることができれば効率的であると言え、荷受会社と仲買人が競争している状況であれば効率的な状況に近づけることができると考えられる。しかし、実際に固定費の違いも考慮したうえで分析すると、競争している状況であっても必ずしも効率的になるとは言えないことが分かる。そのため固定費のデータを示していない。

長谷部：サンプル数が十分にない状況であれば表よりもマージンの分布図を示すと良い。